

# 「実践教育」ジャーナル 執筆マニュアル

## 1. 編集基本方針

(社) 実践教育訓練研究協会は、生産技術等の高度化により技能と技術の融合化が進んでいることに伴い、高度な実践的スキルおよび知識を有する人材の育成を行うための教育訓練に係わる技法の確立および普及を図り、もってわが国における労働者の職業能力の開発および向上に貢献することを目的としています。それ故に、本研究協会は能力開発に関連する研究に高さと広がりを持って、それぞれの会員の希望に応える必要があります。

したがって、生涯技術教育を念頭に置きながら、本ジャーナルが社会的に評価される（すなわち、本研究協会会員等が関心を持って読める技術情報誌としての役割を果たす）雑誌となるよう編集を行います。

以上の編集基本方針に従って、「実践教育」ジャーナルの原稿区分および刷り上がり頁数を以下の通り定めています。投稿の際に区分を指定して下さい。

—原稿区分および刷り上がり頁数—

実践教育報告：学生および能開セミナー等の指導および教材開発等に関する報告（4頁程度）

実践教育ノート：2頁以内の実践教育報告

リサーチノート：研究的な内容の論文（4頁程度）

テクニカルノート：技術的な内容の論文（4頁程度）

技術解説：（6頁程度）

短 信：（1頁程度）

ミニミニ用語解説：（半頁程度）

アイディアコーナー：（半頁程度）

トピックス：（半頁程度）

Q&A コーナー：（2頁程度）

## 2. 執筆要項

### 2.1 表題および体裁

実践教育研究会所定の別紙に示す書式例（A4 2段組み、1段1行25文字、1頁50行）に従って、必要事項（表題、所属、著者名等）を記入する。オフセット印刷のため図表および文章等の書式を守って下さい。

### 2.2 本文

(A) 本文の見出しの分類は大見出しを1.、中見出しを1.1、小見出しを1.1.1、とする。（別紙の例を参照のこと）

(B) 本文はワープロ横書きを原則（MS 明朝 10P、手書きの場合楷書で、黒色のペンあるいは鉛筆書きでも可）として常用漢字、新仮名づかいを用いる。

(C) 原稿の仕上がりページ数は上記、1. 原稿区分に記載されている範囲に納めるものとする。

### 2.3 図、表、写真

(A) 図（写真も含む）の場合は下側に、表の場合は上側に必ず説明（キャプション）をつける。（別紙の例を参照のこと）

(B) 図、表中の文字は英文でもよい。

(C) 図表・写真は1段あるいは2段の幅で原稿内に貼り付け、写真の解像度は72ピクセル以上が望ましい。

(D) 著者がワープロ画面上で図表等の割り付けを行う。

(E) 図の書き方の具体例を以下に示す。

- ① 目盛りの取り方は(1, 2, 3)、(2, 4, 6)、(5, 10, 15)に従う。
- ② 物理量の名称は和文・英文いずれも可、名称に続けて記号、単位の順に書く。横軸の場合は左から右へ書く。
- ③ 縦軸の場合も横軸と同様であるが、向きに注意し、物理量、記号および単位は下から上を書く。
- ④ 図中の線は枠の線よりも細くする。
- ⑤ 実験値を示す点には見やすい印を用いる。例えば○印の場合は直径2mm以上とする。

対数グラフの場合は例2のように数値を記入することが望ましい。表は例3のごとくに掲載して下さい。

#### (例1)

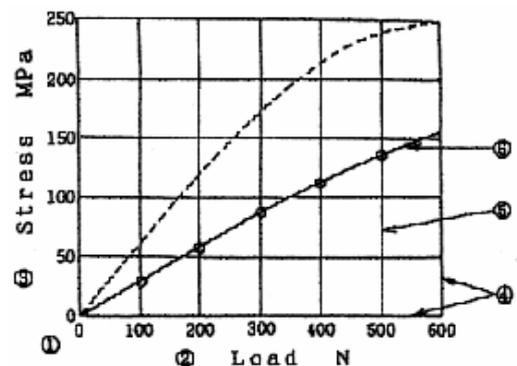


図1 リニアスケールの場合の一例

#### (例2)

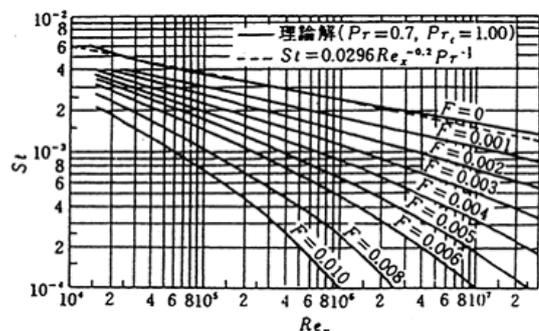


図2 対数グラフの場合の一例

(例3)

表1 表の書き方の一例

Core No.	LVF1	LVF2	LVF3	LVF4	LVF5
a (mm)	1.00	1.20	1.41	1.67	2.00
b (mm)	8.27	8.26	8.24	8.21	8.16
L (mm)	16	16	16	16	16
t (mm)	0.145	0.145	0.145	0.145	0.145
$\phi_1$ (deg)	25	25	25	25	25
$P_1$ (mm)	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
$d_A$ (mm)	1.45	1.76	2.06	2.42	2.86
$L/d_A$	11.0	9.09	7.77	6.61	5.59
a/b	0.121	0.145	0.171	0.203	0.245
$A_e$ (m <sup>2</sup> )	0.0252	0.0260	0.0265	0.0270	0.0275
A (m <sup>2</sup> )	1.12	0.947	0.826	0.716	0.616

(A) 文献の引用は通し番号を付け、論文の末尾に一括する。

(B) 参考文献の書き方は原則として左欄の形式に従う。なお、執筆に関する詳細は以下の文献を参照のこと。

参考文献

- (1) 日本機械学会 執筆要綱 (改訂7版)
- (2) 日本物理学会 投稿の手引
- (3) 応用物理学会 投稿規定

2. 4 単位

本文および図表中の単位は全て SI 単位を採用する。

2. 5 参考文献

【雑誌の場合】

著者名、論文の表題、雑誌名、巻数-号数、(発行年)、ページ

[例]

- (1) 東京・小山、教育方法について、実践教育、6-3、(1990)、50
- (2) 新宿・渋谷、論文の表題、機論、50-450、(1978)、111
- (3) 新宿・渋谷・東京、新研究発表方法の実施について、雑誌、87-785、(1976)、400
- (4) Fuller E. W. & Stoesser R. F.、論文の表題、Mech. Eng.、90-3、(1984)、1234
- (5) Edwards R. H.、ほか2名、論文の表題、Trans. ASME、J. Appl. Mech.、531、(1984)、1234  
(雑誌に通しページがある場合は原則として、通しページを記入する。)

【書籍の場合】

著[編]者名、書名、巻 [1巻のみの場合は不要]、(発行年)、ページ、発行所

[例]

- (1) 新宿、自動制御理論、(1986)、123、機学社
- (2) Ahrendt W. R. & Taplin J. F.、Automatic Feedback Control、(1984)、12、McGraw hill

【講演論文集の場合】

著者名、論文の表題、講演論文集名、号数、(発行年、月)、ページ

[例]

- (1) 新宿、論文の表題、機講論、840、(1972.4)、1
- (2) 新宿・ほか3名、論文表題、機講論 (関西支部)、448、(1964.10)、35